教 授　**村本　由紀子**　MURAMOTO, Yukiko

1. 略歴

1984 年 4 月	東京大学文科Ⅲ類入学
1988 年 3 月	東京大学文学部社会心理学専修課程卒業
1988 年 4 月	株式会社 日本長期信用銀行 入行
1992 年 4 月	東京大学大学院社会学研究科社会心理学専攻修士課程入学
1994 年 3 月	同 修了（修士（社会心理学））
1994 年 4 月	東京大学大学院社会学研究科社会心理学専攻博士課程進学
1997 年 3 月	東京大学大学院人文社会系研究科社会文化研究専攻博士課程単位取得退学
1998 年 4 月	京都大学総合人間学部基礎科学科 助手（2000 年 3 月迄）
1999 年 3 月	東京大学大学院人文社会系研究科 博士（社会心理学）取得
2000 年 4 月	岡山大学文学部行動科学科 助教授
2001 年 4 月	岡山大学大学院文化科学研究科産業社会文化学専攻 助教授（兼任）
2004 年 4 月	横浜国立大学経営学部 助教授
2005 年 4 月	横浜国立大学大学院国際社会科学研究科 助教授
2007 年 4 月	横浜国立大学大学院国際社会科学研究科 准教授
2011 年 4 月	横浜国立大学大学院国際社会科学研究科 教授
2011 年 10 月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授
2018 年 4 月	東京大学大学院人文社会系研究科 教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

社会心理学

b 研究課題

心と社会環境の相互構成過程の探究

1) 多元的無知による集団規範の維持過程
2) 文化的慣習の社会生態学的基盤、「心の文化差」の規定因の探究
3) 組織文化・風土をめぐる諸問題

c 概要と自己評価

概要

1) 集団規範の生成と再生産過程…人は周囲の他者の行動を観察し、特定の行動が共有されていると感じることによって、「規範」の存在を知覚する。人はその知覚に基づき、たとえそれが自らの選好とは異なっていても、規範にしたがった行動をとる傾向がある。この行動がさらに他者によって観察されることで、やがて、実際には誰も望んでいないはずの規範が予言の自己成就的に維持・再生産される。こうした「多元的無知」現象の共同主観的な相互規定メカニズムを検討することは、心の社会・文化的起源を探るうえで重要な意味をもつと考えられる。本研究では、実験室内にミニマルな規範伝達の連鎖を作り出すことで、このメカニズムに迫る試みを行っている。また、多元的無知の生起や伝播に影響を及ぼす社会環境の特質の探究も進めている。

2) 文化的慣習の社会生態学的基盤、「心の文化差」の規定因の探究…ある社会や集団において、特定の慣習や思考様式が共有され、維持されている理由について体系的な検討を行うには、その慣習や思考様式を取り巻く生態環境の特質と歴史、環境に適応する過程で作り出された特有の社会構造や人間関係のありよう、それらの維持・再生産に寄与する個々人の心理や行動の特質、といった諸変数間の関係を丹念に探り、描き出すことが必要となる。本研究では、社会の現場における慣習や思考様式の「事例」に焦点を当て、マイクロ・エスノグラフィーの研究方法論を用いてその生成・維持過程を継時的に追跡している。また、共有信念や心理・行動傾向の異文化間での差異（心の文化差）に着目し、その規定因たる社会環境の特質を明らかにするための比較文化（比較社会）実験・調査研究も推進している。

3) 組織文化・風土をめぐる諸問題…国や民族といった大きなレベルの文化に比して、小規模で人の入れ替わりが頻繁に行われる企業組織の文化は、変化プロセスの把握が比較的容易であるため、心と文化に関わる理論構築に向けた検証が行いやすいという利点がある。本研究では、強い組織文化は組織変革にとって正負両面の効果をもつ（生産性向上のための学習を促進する一方で、環境変化に対応した柔軟な変革を抑制しうる）ことを明らかにしてきた。現在はさらに

視野を広げ、各種の人事制度（ハード）と文化・風土（ソフト）の相互作用の様相や、それらが従業員の心理・行動に与える多面的な影響過程についての検討を行っている。

自己評価

以上の研究の多くは、文部科学省科学研究費（『集団規範の形成・維持に関わる自他の相互作用過程の探究』）、企業との共同研究契約に基づく研究助成などの外部資金を得て実施されている。研究室所属の大学院生、研究室出身の若手研究者はもとより、国内外の研究者（経営学・社会学・人類学等の関連他領域を含む）とも広く連携して、国際的・学際的な視野に立つ共同研究プロジェクトとしての展開に努めている。研究成果を学会発表および学術論文として発信する際には、個々の研究を主導した若手研究者（大学院生を含む）のサポートに尽力している。また、企業や地域共同体など、社会の現場に根差した研究を手がけていることから、実社会への研究成果の還元と、産学連携にも努めている。

d　主要業績

(1)　著書

分担執筆、村本由紀子、「「心の文化差」はあるのか : 個人へのアプローチ、社会へのアプローチ」（繁桝算男（編）『心理学理論バトル : 心の疑問に挑戦する理論の楽しみ』pp.101-118）、新曜社、2021

辞書・辞典・事典、村本由紀子、「文化心理学 ; エスノメソドロジー」ほか（子安増生・丹野義彦・箱田裕司（監修）『現代心理学辞典』）、有斐閣、2021

(2)　論文

Keita Suzuki, Tomoya Yoshino, and Yukiko Muramoto、「The effects of a selection system and implicit theories on individual effort.」、『Japanese Journal of Experimental Social Psychology』、60 (1)、50-55 頁、2020

正木郁太郎・村本由紀子、「性別ダイバーシティの高い職場における感謝の役割 : 集合的感謝が情緒的コミットメントに及ぼす効果」、『組織科学』、第 54 巻 3 号、20-31 頁、2021

正木郁太郎・村本由紀子、「ダイバーシティ信念をめぐる多元的無知の様相 : 職場におけるズレの知覚と誤知覚」、『社会心理学研究』、第 37 巻 1 号、1-14 頁、2021

Keita Suzuki, Naoki Aida, and Yukiko Muramoto、「Effect of implicit theory on effort Allocation ztrategies in multiple task-choice situations: An investigationfrom a socio-ecological perspective.」、『Frontiers in Psychology』、Dec 3; 12:767101、2021

(3)　解説

村本由紀子、「社員の自律と職場の空気の心理学」、リクルートマネージメントソリューションズ（編）『RMS Message』、59、18-20 頁、2020

(4)　学会発表

国内、鈴木啓太・村本由紀子、「“一生懸命にやってみるまで分からない” : 情報としての努力を重視する実体理論者」、日本社会心理学大会第 61 回大会、学習院大学（Web 開催）、2020.11.7

国内、仲間大輔・村本由紀子、「流動性と貢献能力の格差が協力行動に及ぼす影響 : 社会的ジレンマ状況を用いたインターネット実験」、日本社会心理学大会第 61 回大会、学習院大学（Web 開催）、2020.11.7

国際、Keita Suzuki & Yukiko Muramoto、「How do incremental and entity theorists react to other's failure?: A cross-cultural comparison.」、The 25th Congress of the International Association of Cross-Cultural Psychology、Web 開催、2021.7.27

国内、鈴木啓太・村本由紀子、「暗黙理論と教育制度における課題変更の困難さが学業パフォーマンスに与える影響」、日本社会心理学大会第 62 回大会、帝京大学（Web 開催）、2021.8.26

国内、仲間大輔・村本由紀子、「メンバーシップの流動性と能力格差が職場の協調に及ぼす影響」、日本社会心理学大会第 62 回大会、帝京大学（Web 開催）、2021.8.26

国内、渡壁政仁・仲間大輔・村本由紀子、「規範遵守行動の成立における他者の行動と選好の推測の影響 : COVID-19 流行に伴うマスク着用行動に注目して」、日本社会心理学大会第 62 回大会、帝京大学（Web 開催）、2021.8.26

国内、村本由紀子、「組織における制度と文化 : 社会心理学の視点から」（招待講演）、日本産業保健法学会第 1 回学術大会、一橋大学（Web 開催）、2021.9.23

国際、Shuma Iwatani & Yukiko Muramoto、「The effect of individual mobility on the motivation to avoid reputation loss among ingroup and outgroup members.」、2022 Annual Convention of the Society for Personality and Social Psychology、Web 開催、2022.2.20

(5)　会議主催（チェア他）

国内、東京大学文学部ホームカミングデー・パネルディスカッション「文学部が見てきた「女性と社会」」、東京大学、2020.10.17

(6)　予稿・会議録

国内会議、東京大学文学部広報委員会（編著）『文学部が見てきた「女性と社会」』、2021

国内会議、東京カレッジブックレットシリーズ 16『連続シンポジウム・人文社会科学の未来 :「東京大学における人文社会科学の振興とその展望報告書」をうけて（1)』、2021

(7) **共同研究・受託研究**

共同研究、村本由紀子・岩谷舟真・今城志保、株式会社リクルートマネジメントソリューションズ、「多元的無知の維持メカニズムの調整要因の検討」、2020.4～

3. 主な社会活動

(1) **他機関での講義等**

東京カレッジ・シンポジウム「人文社会科学の未来 : 文系・理系という区分の再考」、東京大学（Web 開催）、2021.7.12

筑波大学附属高等学校「進路説明会（社会学系分科会)」、2020.7、2021.7

東京大学高大接続研究開発センター「キミの東大」東大ゼミ訪問 第 1 回～第 3 回、2021.12.21

(2) **学会**

国際、Asian Association of Social Psychology、Editorial Board Members、2018.1～2020.12

国内、日本心理学会、国際賞選考委員、2020.11～2022.10

国内、日本社会心理学会、常任理事、編集委員長、2019.4～2021.3

国内、日本社会心理学会、常任理事、大会運営委員長、2021.4～